

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2021

「ほがらかに生きる ～大学は知の宝庫～」

第2回 10/14 (木) 13:30～15:00 報告

認知症の方を支える家族の理解～私たちにできること～

講師 大野さおり (本学講師)

於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*

令和3年度第2回公開講座(受講者41名)が10月14日に開催されました。本学講師の大野さおり先生による「認知症の方を支える家族の理解～私たちにできること～」と題された講演は、認知症を支える介護者の立場と家族について考えようという興味深い内容の話でした。もし自分が認知症になったら、家族に何を望むのか、また、認知症の家族がいた場合、介護者と家族の接し方などをどのようにしたら良いかなどのお話をされました。

まず、認知症のタイプは大きく分けて2つあります。1つは現段階では治療が困難といわれている認知症、これにはアルツハイマー型認知症(約60%)、脳血管性認知症(約20%)、レビー小体型認知症(約10%)、前頭側頭型認知症(約10%)がある。もう1つは、早期発見・早期治療で症状が改善できる認知症で、慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症、ホルモン異常、薬物の副作用などによって起こる認知症があることです。

次に認知症には2つの症状があることが説明されました。1つは中核症状で認知症であれば、必ずみられる症状で改善が困難なものです。これはすべての認知症の人にみられる症状(記憶障害・見当識障害、実行機能障害、失行・失認・失語、理解・判断力の低下)です。もう1つは周辺症状で、体の状態や周囲の環境、対応の仕方によって現れる症状が違い改善の可能性があるものです。必ずしもすべての人にはみられないが具体的な症状としては、徘徊・妄想・幻視・幻聴・興奮・暴言・暴力、食行動異常・排泄行動異常、介護への抵抗などがあることです。

認知症高齢者の対応で気を付けてほしいポイントは、理屈は通用しないので人格を尊重して、納得させるように接するようにすること。また、孤独は認知症の進行を早めることから一人ぼっちにしないようにし、好きなことを一緒にすることで感情が動き出すからです。

しかしながら、認知症高齢者に対して過保護にすることではなく本人にできることはしてもらいようにし、いつも身近にいて安心感をもたせるようにしてあげることが大切です。また、感情や自尊心は残っているので、子ども扱いしたりばかにしたり、か

らかったりしないようにして、その人のペースに合わせてゆっくりと進めることが大切です。

介護者の立場と家族には、直接介護者、間接的支援者、傍観的家族と分けられ、同じ「家族」でも、いろいろな立場があります。家族には期待するものと求められるものがあり、周囲（社会、地域、他社）からも求められるもの、自分自身で求めてしまうものと期待するものとのギャップがある。そのため、家族には、身体的、精神的、社会的、経済的な負担が生まれます。

これらには、とまどい、否定、混乱・怒り・拒絶、割り切り、あきらめ、などがあり最終的には受容する気持ちを持つことが大切であり、家族（直接的介護者）にはストレスを軽減させるようにすることが必要で、社会資源（地域包括センター、社協、介護保険事業所等）へ相談することも一つであることが話されました。

認知症の知識やそれを支える家族についての関係が十分に考えさせられる講座でした。

【講座の様子】



